

緊急事態宣言の解除

皆さん、こんばんは。今日は6月27日(もうすぐ28日)、最高気温は31度だったそうです。キャンパスには、巨木と緑が多すぎるくらいあります。その緑がとても綺麗です。中でも、今、紫陽花が素晴らしく綺麗に咲いています。新型コロナウイルス感染症で世界中が大騒ぎしていますが、自然の緑の強さに脅威と感動を感じています。



例年より約1か月遅れて、2020年度の春学期が5月7日から始まりました。しかも、すべての科目が遠隔授業で始まっています。現在、我が国では緊急事態宣言が解除され、6月1日から学内での実験・実習科目等の対面授業が徐々に始まり、キャンパス内には、マスク姿の学生の姿が見られるようになりました。オンライン講義になっていますので、教員らは対面方式からの転換をしています。双方向性を生かして新しい授業の形に手応えを感じる教員がいる一方、撮影などの準備に時間が思いのほかかかるとの声も上がっています。私も授業方法の転換と準備に四苦八苦しています。特に、学生の反応を見て雑談を入れることができないので、今まで以上に面白みに欠ける授業になっているのではないかと心配しています。

教員間でオンライン授業に関して意見交換する機会がありました。そこで出た意見ですが、学生が「授業の質は明らかに下がった」「動画の質が低い」とオンライン会議システムのチャットで教えてくれたそうです。新型コロナウイルスでいかにも学生が苦戦しているかのような報道が散見されますが、私はむしろ教職員が苦戦していると感じています。前にゼミ生や息子を観ていて感じたことがあります。それは、これまでも毎日のように動画配信(YouTube(ユーチューブ)など)で、ネットを見慣れている学生たちに、緊急的に始まったウェブでの授業を素人が作って配信しているのです。”動画の質が低い”と言われるのも、わかります。そこで、オンラインで大切なのは何なのかを考えました。まだ結論には至っていませんが、発信する側の熱量は少なからず関係すると思っています。

社会の変動に合わせて教育の在り方が変わることが予想され、オンライン授業は今後ますます注目されるでしょう。これには、問題点も多く感じます。私はオンライン授業にテレビ会議システム(MeetやZoom)を用いていますが、科目によっては参加者全てが”黒塗り”状態です。受講生が理解できているのかもわかりません。もしかしたら、(こんなことを考えたくはありませんが)テレビ会議に参加はしたものの、“どこか違うところに行ってた”とか、可能性は否定できません。face to faceの授業ではない弊害を感じています。「人間は、表情や声以外からも多くのメッセージを受け取っている」と聞いたことがあります。オンラインでは伝わらない”小さな身体の動き”が、大きな意味を持っているのだと感じています。新しい生活が求められ、ICTの普及で、大学生にとり、普段から顔を合わせて話すことが減少傾向にあると思います。私はなるべく自分の顔を見せて授業を進めています。そして今回、相手の表情や反応に合わせて、無意識に話し方を変えている自分がいたことに気がつきました。皆さん、どうすればより良いコミュニケーションができるのか、考えて教えてください。

残念ながら、「新型コロナ禍」は過去のものではなく、見通しがつかない進行形状で「7月」を迎えます。これからの季節、もっとも危惧されるのは、熱中症です。感染症予防のためにマスクを着用すべきですが、熱中症予防のためにはマスクははずしたほうがよいのです。また、感染症予防のために窓を開放すべきですが、熱中症予防のためには窓を閉めたうえでエアコンを稼働させたほうがよいのです。あちらを立てればこちらが立たずのトレードオフ関係にあると思います。一般的に、エアコンは室内の空気を取り込んで冷やしているだけなので、換気したことにはなりません。エアコンを使用するときは、できるだけ空気のよどみを作らぬように、(空気の流れを作るために)少し窓を開けるなどで換気をしたほうが良さそうです。

東京都の新型コロナウイルスの感染者が増え続けています。地方でも感染者が出始めています。東京はもちろん、全国各地での感染者の増加が懸念されます。気を抜けば緊急事態宣言前の状況になりかねません。みなさん一人一人が対策を継続することで、感染者を減少させることが可能だと思います。まだまだ、みなさん一人一人の協力が必要です。「そんなの散々聞いてきたよ!」、「簡単に言うなよ!」といった声が聞こえてきそうです。私は、微生物・感染症、予防医学を専門にしていると言いつつ、具体的なことが言えない事に不甲斐

ない気持ちです。ただ、この新型コロナウイルス感染症抑圧は長期戦と覚悟しつつも最小限の被害に抑えるべく、研究成果やこれまでの知見が一日も早い感染症収束の一助となればと奮闘努力しております。どうか、もう少しお時間をいただきたいと思います。

学生サポートセンター長 伊藤守弘(6月27日)